2026 年第 45 週の報告です。
インフルエンザは前週注意報レベルであった南丹と中丹東に加え、中丹西も注意報レベルに増加しました。山城北の**咽頭結膜熱**の警報レベルは今週も継続、中丹東では新たに**手足口病**が警報レベルになりました。
全数把握対象疾患は、**結核**が 4 件、**レジオネラ症**と**侵襲性インフルエンザ菌感染症**はそれぞれ 1 件、**梅毒**は 2 件報告されました。

今週報告された**侵襲性インフルエンザ菌感染症**を引き起こすインフルエンザ菌は、現在流行中のインフルエンザウイルスとは別物です。まだインフルエンザウイルスが発見される前、1891 年の冬に欧州地域でインフルエンザが大流行した際、ドイツのコッホ研究所で北里柴三郎らがインフルエンザ患者の鼻咽頭から発見し、原因菌として発表したことが、本菌の名称の起源となりました。主な感染経路は飛沫感染と接触感染で、髄液や血液中などの無菌部位に菌が侵入すると重症化し侵襲性インフルエンザ菌感染症を発症します。特にインフルエンザ菌ｂ型（Hib：ヒブ）は乳幼児の髄膜炎の原因菌として知られており、生後２か月から定期接種として５種混合ワクチンが接種されます。治療は抗菌薬で行われます。インフルエンザウイルス同様、手洗い、咳エチケットなどの感染対策が重要です。

参考文献（外部リンク）
侵襲性インフルエンザ菌感染症｜国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト